

大学院医学研究院 松原久裕教授の最終講義が行われました

令和 7 年 3 月をもって退職される大学院医学研究院 松原久裕教授（先端応用外科学）の最終講義が、3 月 11 日（火）に医学部附属病院ガーネットホールにて行われました。当日は本学の教職員・学生、学外からの多くの来場者が聴講しました。

松原教授は昭和 59 年に千葉大学医学部を卒業後、千葉大学医学部附属病院 第二外科（当時・現先端応用外科学）に入局。平成 8 年に千葉大学医学部附属病院 第二外科の助手に就任後、文部省在外研究員として University of California, San Diego 及び Johns Hopkins University 外科への留学を経て、平成 14 年に千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学の講師に。その後、平成 19 年に千葉大学医学研究院 先端応用外科学の教授に就任され、以降約 18 年間にわたり先端応用外科学の研究活動・発展に大きくご貢献されました。また、平成 25 年～令和元年には千葉大学医学部附属病院の副病院長を、令和 3 年からの 2 年間は千葉大学大学院医学研究院長・医学部長も務められました。

最終講義は、三木医学研究院長からのご挨拶、続いて大鳥附属病院長からのご挨拶、来賓の徳久剛史名誉教授からのご挨拶の後、演題『外科学再興～理 術 熱情 その先の夢～』について、食道癌を中心とした消化器外科の研究などについてお話しされ、研究への熱い思いのこもった、“熱情”溢れる最終講義となりました。講義終了後は、学生代表をはじめ、多くの関係者から謝辞と花束が贈呈されました。

松原教授の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。



三木研究院長によるご挨拶



大鳥附属病院長によるご挨拶



最終講義の様子



学生代表による謝辞



花束贈呈